

# 圓福寺報



圓福寺報 第六十九号  
 平成二十八年七月十五日発行  
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺  
 千葉市稲毛区六川町三七五 TEL (二五二) 九二八一  
<http://www.chiba-empukuji.com>  
 E-mail: oshou@chiba-empukuji.com

### 最期のだるま

長年にわたり、毎年新年号の表紙のために、干支色紙を送ってくださっていた吉田和子さんが、去る六月二十五日にご逝去されました。享年九十歳でした。

葬儀に際し、受付にたくさんのお和子さん手作りの手工艺品が飾られました。お持ち帰りくださいとご遺族のお気持ちに添えられました。その中で目を引いた「福だるま」をいただきました。まいりました。

吉田和子さんが寺報の表紙を飾るのもこれが最期となっていました。

泰室宗和姉  
 のご冥福をお祈り申し上げます。

### 目次

「歩き遍路に寄せて」

2

宗耕禅士 僧堂掛搭

5

僧堂掛搭の第一関門

6

——僧堂入門試験

若き和尚の

四国遍路日記(その二)

8

三巡目四国あるき遍路のご案内

14

「京で禅に触れる旅」に参加して

16

西小中台 矢野 弘明さん

お寺と和尚の記録抄

22

穴川花園幼稚園 園だよりから

「Q園隊の珍客」

23

地藏盆のご案内

24

毎年、寺報でご報告している花園会会計報告は、施餓鬼のご報告のみとさせていただきます。再建に関するものは、すべて「再建だより」にまとめさせていただきます。

# 歩き遍路に寄せて

圓福寺住職 宮田 宗格



三巡目の四国あるき遍路を十一月から始めることになりました。八十八か所の札所を一巡するのに七～八年かかりますから、私が先達を務めるのもこれが最後かもしれないので、ここら辺であるき遍路のことについて書いておこうと思いました。

## 歩き遍路の原点

小学四年の頃だったと思います。休みの日に、友だちと連れ立って隣の水沢の町に遊びに行っただけが、夕方電車で帰ろうとしたら、電車賃が五円足りません。どこを探しても、わずかに五円のお金は出てきませんでした。友だちには五円貸してくれなんて、内気な私には言えませんでした。友だち



も、貸してやるよなんて気の利いたことが言えませんでした。隣町には、母の実家がありましたので、友だちにはそこに行つて五円借りて帰るから先に帰つていいと言つて別れました。ところが、内気で恥ずかしがり屋の私は、母の実家に行つて五円貸してもらつてもできませんでした。

帰りが遅くなつたら母はなんていうだろうかと心配しつつも、足は自宅の方を向いて、私は歩きだして行きました。母が実家に行くたびにバスで通つた道で、国道四号線をひたすら南に行けばいいのですから、道に迷うことはありません。歩くにつれ、日は落ち、だんだん暗くなってきました。不安と心細さがこみ

あげてきました。その気持ちには、交番の前を通つた時に、ついに嗚咽から泣き声になつていました。おまわりさんが気付けてくれないかなあという思いが、泣き声になつたのだと思います。でも、おまわりさんは不在のようで気付けてもらえませんでした。そうなるかあとはいまもうひたすら歩くしかありません。田舎町ですから、そんな時間に歩いてる人なんかいません。泣き声も泣き顔も誰にも気づかれず、小学四年生の私は歩きまわりました。

ようやく町はずれの建物などが目に入るようになり、もう少しだもう少しだと言ひ聞かせていたような気がします。なんとか家にたどり着いたのは、午後七時過ぎだったと思います。白黒のテレビがついていたことが、印象に残っています。母は叱るでもなく、私と話す、コトの顛末を聞いてくれたのでした。





の合羽は油紙で  
できていて、雨  
にぬれると後始  
末が大変だっ  
た、とか。父の

生後百日で父を亡くし、父親を知らずに育った私に、母はよく父の話の聞かせてくれました。父は修行時代に、道友とともに紀伊の方に行脚に行ったことがある。昔

### ■四国遍路との、えにし

三十年ほど前に、四国八十八ヶ所を一人で歩いた時、すでに暗くなっているのに宿が見つからずに歩いた日がありました。途中で、宴会の歓声が聞こえる立派なホテルの前を通りましたが、破れ衣の雲水がとてもそんな宿には泊まれないと、そのホテルの前をすたすた歩いていて自分と、小学生の時に夜道を歩いて交番の前を通り過ぎた自分とが重なり、小学四年生の時に家まで歩いて帰った十一キロ、あれが私の遍路の原点なのだと気付きました。

生家は愛媛の小松の材木屋だった。両親を早くに亡くした父は、寺に小僧に出され、大洲の如法寺で、のちに建長寺派管長となられた宮田東珉老師と生活をともにしていた。如法寺の開山堂は山の上であり、お勤めに行った帰り、老師がさっさと山道を下りていき、中学生の父は山中に取り残されて、怖い思いをしたことがある、とか・・・。

そんな話を聞いていた私が修行道場に行つて、父も経験した托鉢や行脚を体験し、父を身近に感じようになりました。そしていつしか、父の生まれした愛媛、四国ってどんなところなんだろうと思うようになつていました。修行道場をお暇したら、いつかは四国の地を行脚したいという気持ちが募っているところに、圓福寺に入寺する話がまとまり、あとはいつ四国に行けるかわからないという機が熟し、私は四国遍路に出かけたのでした。父の葬儀に、郷里の愛媛から駆けつけてくれた叔母と従妹は、三十数時間という長旅だった



長男が僧堂に掛搭するにあたり、理工系の勉強しかしていなかったからと、禅宗の基本を湯島の麟祥院さんに指

と聞かされていましたが、それに比べたら四国はすいぶん近く思えました。これが、私と四国八十八ヶ所とのご縁で、ひいては今回三巡目を迎える四国あるき遍路の原点ということができません。

### ■わらじが結ぶもの

八ページ以降の「和尚の四国遍路日記」をご覧いただくと、遍路の途中で「わらじを編んだ。」という個所があります。札所で休みながらであつたり、早めに宿に入った時などを利用して、わらじを編んでいます。修行時代にわらじの編み方を教えてもらったおかげで、何足ものわらじを持って歩かなくても、途中で編みながら遍路することができました。



導していただきました。親子間だと甘えが出てきたりしますが、他人に教えてもらう方がありますが、やや緊張感があつて身に付くと考えたからです。それでは、師匠である私は何を教えられるのだろうかと考えたとき、十四ページの「臨濟宗の行」の通り、作務・坐禅・行脚をともにすることしかありません。作務をともにするきっかけは火事の後片付けだったかもしれない。火災後の、市原別院耕雲寺での毎週の坐禅会で一緒に坐ることもありました。そして、小学生の頃に四国あるき遍路に連れて行き、掛搭前には僧堂で使う草鞋をともに編みました。托鉢でわらじにこすれて足が痛むたびに、ともにわらじを編んだことを思い出しているかなあと希望的に思っています。それはさておき、私も愛

用のわらじが火事でなくなつたので、そろそろ三巡目のためにわらじを編まなければと思っています。

ほほこれどうしよう

「歩は是道場」

四国遍路のデータによると、徳島最初の難所「焼山寺」を超えられる人は歩き遍路の五十%、そこを超えても結願の八十八番まで到達できる人は三十%なのだそうです。私も、徳島の難所では足を引かずしながら山の中を歩いた覚えがあります。どうしようもない足の痛みに途中でやめるにしても、すぐ誰かが助けてくれるわけでもなく、バスやタクシーに乗れるところまではどうしても自分の足で歩くしかありません。それなら、痛い足を引きずりながらも小さな一歩を前に進めることでなんとか目指す札所まではたどり着けることになりました。

歩き遍路で気づかされるのは、つらく苦しくても最後は自分の一歩しか頼りにできないということ。愚痴ついても、人を頼りにしても、とにかく目の前の道に一步を踏み出すことの繰り返ししかないということ。これは、災難に遭った時も同じで、火災後の再建も一歩ずつ進めることで実現するものと思つていきます。

圓福寺のあるき遍路は、多い時で二十名もの参加者でした。常に励ましてくれたり、時には重い荷物を持ってくれたり、そんな支えがあったので、八十八番まで参加者の百分が到達できました。圓福寺再建も、たくさんの人に支えられて成し遂げられるものと思つて、ひざに水がたまり始めた足を一歩前に進めようと思つていきます。

お話の方は、五円からご縁、ご縁から結ぶもの、そしてたくさんの皆さんのご縁によっての再建のお話へと、ようやくたどり着きました。

# 宗耕禅士

# 僧堂掛搭

平成二十八年四月一日

住職の長男である宗耕禅士が、四月より京都府八幡の圓福寺専門道場に掛搭(かとう)いたしました。当山ゆかりでは、還俗した慈光禅士、湯島麟祥院の住職となった宗欽和尚、富浦満蔵寺宗達和尚に続いて、四人目の僧堂掛搭となります。

思い返せば、宗欽和尚は掛搭前に師匠が変わるといふことがあり、宗達和尚は掛搭する日の



耕雲寺の庭先にて

朝に賽銭箱ごと盗難されるといふ事件がありました。宗耕禅士掛搭に際しては、前年にお寺が全焼するという大事件があり、市原別院耕雲寺からの旅立ちとなりましたが、無事入門を許されて修行を始めました。

宗耕禅士が掛搭した八幡の圓福寺は名前が同じですが、特に歴史的な縁などはありません。昨年二月の二巡目四国あるき遍路満願のお礼参りの折に、高野山から妙心寺に向かう途中で立ち寄らせていただいたというのが縁でしょうか。

天明三年(一七八三)に開創された臨済宗最初の専門道場で、これまでに数多くの禅僧を育てています。最近では、京セ

ラの稲盛和夫さんが参禅されていたことでも名が知れ、現在の本堂・庫裏は稲盛和夫氏と京セラの寄進により再建されたそうです。今年は八人の新到(しんとう)さんが掛搭し、総勢十八~九名の雲水が修行に励んでいるとのことでした。



圓福寺の庫裏と大玄関

鎌倉時代作の「達磨大師坐像」(重文)(82cm)が達磨堂に安置されている。目を見開き、頭から法衣をまとい定印を結ぶ。日本三大達磨の一つとされ、写実的な表現で日本最古の達磨像ともいわれている。

# 僧堂掛搭の第一関門 一一一僧堂入門試験

## ■専門用語解説

【僧堂】(そうどう)

禅宗の専門道場のこと。全国に四十二ヶ所あります。

【掛搭】(かとう)

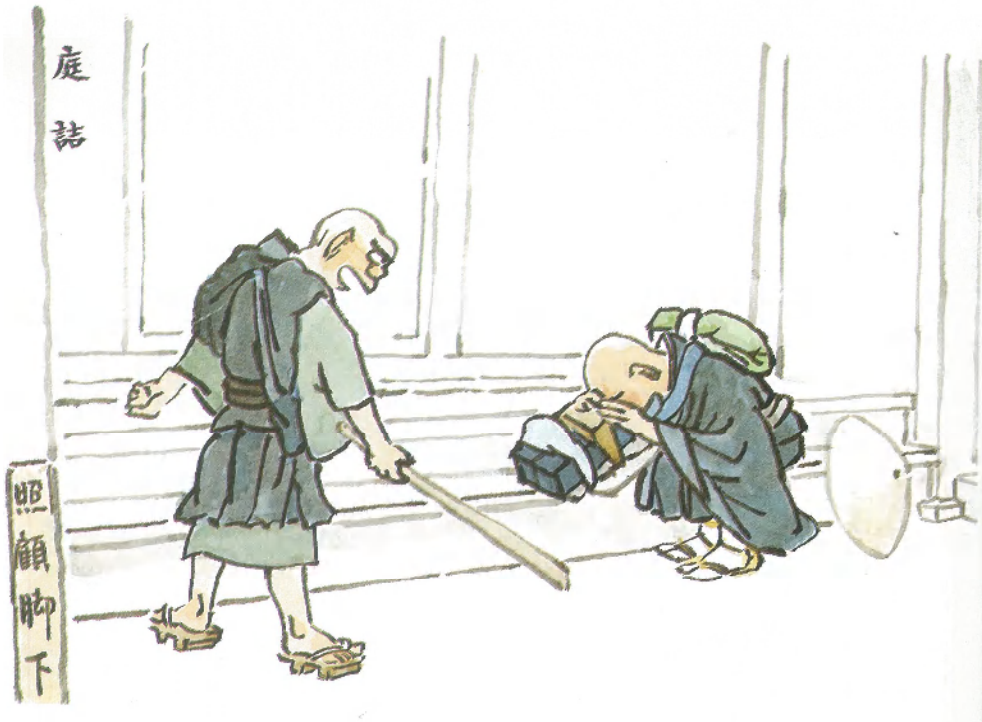
自分の衣鉢などを僧堂の決まった場所に掛けることで、僧堂に入門することをいいます。

【新到】(しんとう)

僧堂に新しく入門を許された雲水のこと。新参者は、「新到さん」と総称される。

【宗耕禅士】

雲水の呼び方は独特で、宗耕(そうこう)なら下の字をとって「コッサン」、宗格なら「カクッサン」と呼ばれる。下の字をとって、促音の「っ」を挟んで「さん」をつけるわけです。



学校には入学試験、会社には入社試験があるように、修行道場にも入門のための試験、試験のようなものがあります。「雲水日記」より抜粋してご紹介します。

庭詰

坐り込み

もはや躊躇はならぬ。最初の関門に挑む。

薄暗い玄関の低い式台へ旅装のまま低頭し、

無我夢中で「タノミマシヨ」とどなってみる。

と、寂寥のどこからか「ドレ」と重々しい応答。

まもなく現われた一雲水に住所姓名を告げ、願

書、履歴書、誓約書を入れた封筒を差出して掛

搭を頼みこむ。取つぎはいったん奥へ伺いに消

えたが再び現われ、「当道場はただいま満員で

ゆとりがない故お引取りください」と断わると、

すげなく奥へ入ってしまつてそれかぎり。さあ、

これからがたいへんだ。

「たとえ玄関払いを喰らつても用便以外は動

ぜず坐りこめ。かりに他の道場へ廻ったところ

で、同じ口上で追っ払われるだけだぞ」とさん

ざん忠告されてきた。予定の行動に移らねばな

らぬ。時に八時過ぎか。長い身体を二つに曲げ

て低頭を始めたが、はやくも腰は痛み出し、額

をのせた手の指は感覚を失つて始末がわるい。

古来より先輩たちのことごとくが堪えて突破し

てきた関門だと合点しながら頑張るが、なるほ

ど、聞きしにまさる苦行だ。

### ■掛搭の必要書類

次の三つを毛筆でしたためて、僧堂の玄関に提出します。

- 一、掛搭願書
- 二、誓約書
- 三、履歴書

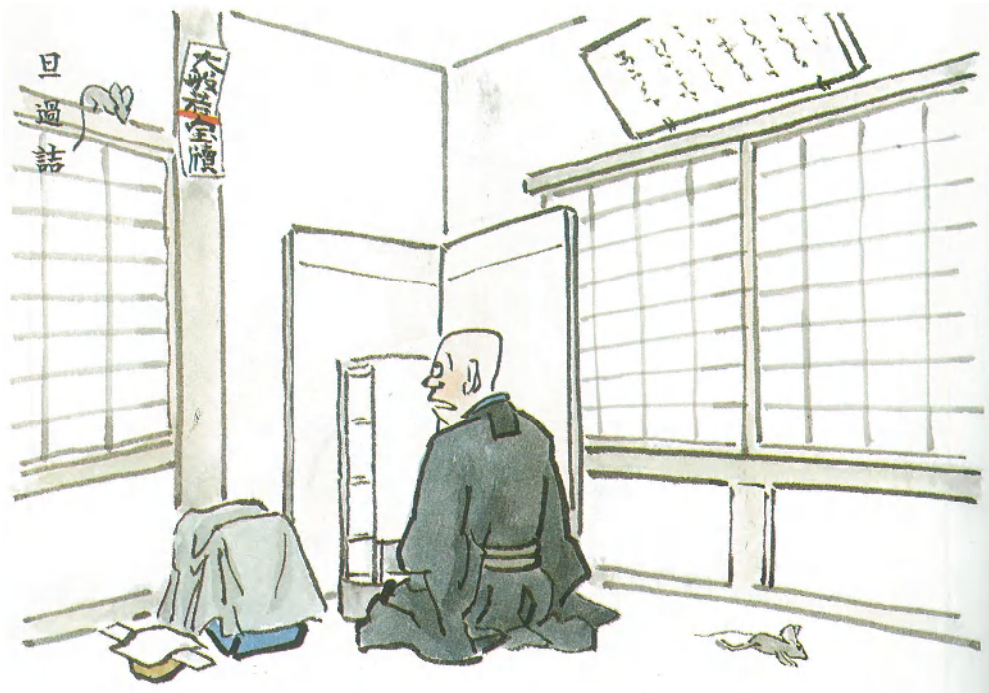
千葉市稲毛区六川町三七五  
臨濟宗妙心寺派 台番三二五一  
寺班三等地一級 圓福寺学徒

宮田 宗耕  
平成三年四月十六日生

- 一、得度 平成十四年七月二十七日  
妙心寺派管長西片義保老師に付き得度
- 一、法階 平成二十八年二月  
知客職(しかしよく)稟承

- 一、学業
    - 平成十九年三月 千葉大学教育学部付属中学校卒業
    - 平成二十二年三月 慶應義塾高等学校卒業
    - 平成二十六年三月 慶應義塾大学理工学部卒業
    - 平成二十八年三月 慶應義塾大学大学院 理工学研究科修了
  - 一、賞罰 なし
- 右の通り、相違ありません。  
平成二十八年四月一日

宮田 宗耕



## 旦過詰

独房幽閉試験

三日目の朝になると追いたてがない。第二の関門、旦過詰をやらせるぞ、というわけだ。

柱に立てかけた袈裟文庫をにらんで終日黙々と坐禅を続けねばならぬ。勤行や食事には呼びだされて、皆の末席でむずかしい恰好をまねながらどうにかすませるが、狭い個室に幽閉の形でただひとり、ぼつんと放置されることはどうにもやりきれぬ。書見や喫煙はもつてのほか、しびれた脚をくずして横着しようにも、何やら外に人の気配がし、障子のどこかに目玉がくつついているようで寸分の油断もできない。まさに座敷牢。僧堂ならではの入門試験であろう。

しかし、昔の古人先哲たちの示した求達の猛烈な気魄は、生やさしいものではなかった。恵可(禅宗の第二祖)は雪中で己の臂を断ち切って熱意を表わし、はじめて達磨に許され、教えを受けて嗣法したという。ひとたび発願して郷里を出てきた以上、一大憤志をもって何が何でもやり抜かねばなるまい。



通称「達磨堂」とも呼ばれる圓福寺の寺号石

# 30年前の 四国あるき遍路の旅

# 若き 和尚の 四国遍 路日記

## その2

土佐から伊予の国に入る。

27日目

4月2日(火) 曇時々晴

5時30分 開静(起床)  
 6時 粥座(朝食)  
 7時15分 出立  
 今朝も霜が降りている。

9時 宿毛市内托鉢  
 10時40分 宿毛球場で小休止  
 12時15分 脇本のみかん畑で斎座(昼食)  
 民宿で作ってもらった弁当を海を眺めながら食べる。ことさらうまい。昨夜のおばあさんに感謝、感謝。あの人は、80回回かまわっているらしい、金色の納め札をくれた。

12時45分 出立  
 14時45分 城辺町岩水着  
 15時15分 城辺町内托鉢  
 16時45分 四十番観自在寺参拝、投宿  
 城辺(じょうへん)の町は、結構商店街がにぎやかだった。托鉢にも慣れている。城辺と御荘(みしょう)の町は商店街がつながっている。もう少し托鉢をすればよかった。

18時 開浴(入浴)  
 18時30分 薬石(夕食)  
 20時 解定(就寝)

26km

把住 4,857円、放行 1,700円

宿泊代の支払いが済んでから、2,000円お接待していただいた。

皿鉢料理のお接待をいただく。

26日目

4月1日(月) 快晴

6時 開静(起床)  
 すいぶん寒いと思ったら、霜が降りている。もう4月だというのに、それにここは四国の最南端、暖流が寄せてくる海岸のはず。しかし、天気はいい。このところ腫れが続いて有難い。

7時 粥座(朝食)  
 7時30分 ユースホステル出立  
 10時30分 坂井峠で小休止  
 10時頃からようやく暖くなる。春らしい。今日ぐらい歩くのが気持ちいい日はない。春の匂いがいっぱいだ。車で巡拝なんてもったいない。

12時30分 道端で斎座(昼食)  
 今朝、藤井寺ユースでお接待していただいたおにぎりを頬張る。デザート甘夏を1個。今日はまるでピクニックだ。ツバメもいた、カエルも啼いている。もんしろ蝶ももんき蝶も飛んでいる。春だ。宿毛まであと7.8キロか。

13時 出立  
 16時10分 三十九番延光寺参拝  
 16時30分 民宿着  
 17時 薬石(夕食)  
 17時45分 薬石は皿鉢料理というものだと思う。寿司とカニ、カキ、エビ、それに季節の果物。おいしかった。

37.5km

今日は広島からの巡拝の人と同宿だった。85才だというしっかりしたおばあさん——先生と言われている——がリーダーらしい。今晚の宿泊代と明日の弁当をお接待してくれた。お接待というのは断ってはいけないそうだ。供養と同じだ。今日で、土佐・修行の道場は終わりだ。明日からは、車に乗れと言われたら遠慮なく乗せてもらうことにしよう。今まで、随分断ってきた。

20時 解定(就寝)

把住 0円、放行 200円

28日目

4月3日(水) 雨のち曇

5時30分 開静(起床)  
 6時 朝課(朝の勤行)  
 6時30分 粥座(朝食)  
 7時 観自在寺出立  
 10時 須の川の公園で小休止  
 13時15分 津島町岩松の農家の納屋で斎座(昼食)  
 13時45分 出立  
 16時45分 宇和島ユースホステル着、宿泊  
 18時 薬石(夕食)  
 19時 開浴(入浴)  
 21時 解定(就寝)

40.4km

把住 0円、放行 3,190円

把住(はじゅう)：収入のこと。托鉢の浄財など  
 放行(ほうぎょう)：支出。納経料、宿泊代など



宇和町から内子まで一気に。

30日目

4月5日(金) 晴

6時30分 開静(起床)  
 6時45分 粥座(朝食)  
 7時15分 旅館出立、高野長英隠れ家に寄る  
 9時 宇和町信里で小休止  
 11時30分 大洲市内で齋座(昼食)  
 14時 五十崎町で小休止  
 18時45分 小田町旅館着  
 よく歩いた。よく旅館が見つかった。  
 19時00分 旅館前の食堂で菓石(夕食)  
 山あいの町だ。スキー場の看板があるが、  
 いったいどこにあるのか。  
 把住 0円、放行 4,460円

48km

お接待で初めて車に乗せてもらう。

4月6日(土) 雨のち曇

6時30分 開静(起床)  
 7時 粥座(朝食)  
 8時 出立  
 9時 山道で車のお接待をいただく  
 9時30分 四十四番大寶寺参拝  
 10時 大寶寺出立  
 10時10分 久万町公園で小休止  
 12時45分 四十五番岩屋寺参拝  
 13時 齋座(昼食)  
 15時30分 大寶寺に戻る  
 15時40分 久万町を托鉢  
 17時15分 大寶寺着、投宿  
 17時30分 開浴(入浴)、菓石(夕食)  
 20時 解定(就寝)  
 あんか付の宿坊だ。  
 把住 3,135円、放行 2,700円

31日目

今日はじめて、車に乗せてもらった。有難かった。久しぶり、約一か月ぶりの自動車の速いこと速いこと、タイムマシンにでも乗ったようだ。また、乗せてもらったところがつづら折りの坂道で、非常に助かった。本当にありがとうございます。おかげで、今日は岩屋寺までお参りでき、その上、久万の町を托鉢することまででき、本当によかった。その上、大寶寺に投宿させていただき、この上なくいい日だ。

岩屋寺までどうぞとのことだったが、これは社交辞令だったので丁重にお断りさせていただいた。岩屋寺までは結構遍路道も整っていて、歩くのは楽な方だ。岩屋寺はいいところだ。遍路道から行くと、仁王門をくぐって境内に入る。お寺の近くになると、切り立った奇岩が迫り、迫力のある景観だ。

29日目

4月4日(木) 雨のち曇

7時 開静(起床)  
 7時20分 粥座(朝食)  
 8時45分 ユースホステル出立  
 妙心寺派等覚寺(伊達家墓所参拝)、西江寺参拝  
 9時30分 宇和島市内托鉢  
 11時 和霊社参拝、小休止  
 13時 四十一番龍光寺参拝  
 13時45分 四十二番仏木寺参拝  
 14時45分 齒長峠で小休止  
 14時55分 齒長峠出立  
 仏木寺からここまできつかった。四国のみちを通った方がよかったかもしれない。しかし、絶景だった。宇和島の方のリアス式の海と段々畑と銀色のビニールハウスの取り合わせは最高。明石寺まで、7.7キロ。  
 16時20分 四十三番明石寺参拝  
 17時10分 旅館着  
 17時30分 開浴(入浴)  
 18時30分 菓石(夕食)  
 21時 解定(就寝)  
 把住 4,329円、放行 4,600円

27.5km

今日は齋座抜きだった。なぜかあきれられるほどの空腹にならなかつた。午後から結構歩くことにしていたので、歩くことに一生懸命で、齋座を取らないでしまった。

ここ宇和町は、高野長英が逃亡中隠れていた所だ。渡辺家という庄屋の門の二階にひそんでいたと、本で読んだのを記憶している。

今思えば・・・宿毛から四国の西側を歩いて松山に出るまでの遍路道に「峠」は欠かせません。高知と愛媛の県境にある松尾峠にはじまり、齒長峠、大洲に出る鳥坂峠、久万高原に抜ける下坂場峠、そして松山に下りる三坂峠など。圓福寺の四国あるき遍路の旅では、きつく苦しい峠ばかりでしたが、そんな峠越えをしながら、そして托鉢をしながら、一日に三十キロ近く歩いている若さをうらやましく思います。

松山で二日間の托鉢

4月8日(月) 晴

33日目

- 6時30分 開静(起床)
- 7時30分 粥座(朝食)
- 9時15分 コースホテル出発  
道後温泉と松山市内托鉢
- 12時 松山城で齋座(昼食)  
城山から見た街は春霞に覆われ、春だ。陽射しはことのほか強烈だ。
- 13時 松山城出発  
松山市内を托鉢
- 15時 松山城之内公園で小休止  
伊予銀行に行って把住金を両替したら、汗拭きをくれた。松山は今日、桜が満開だ。
- 15時30分 松山市内を托鉢
- 16時30分 路面電車で宿に戻る
- 17時10分 松山神泉園コースホテル着、連泊
- 18時30分 薬石(夕食)
- 19時30分 道後温泉本館で開浴(入浴)
- 21時 解定(就寝)

把住 9,596円、放行 3,570円

今夜の開浴は、道後温泉本館に行った。いい湯だ。コースホテルから坂道を降りていくとき、照明に浮かんだ松山城がきれいだった。道後公園の夜桜見物も最高潮だ。

松山は、山あり海あり川あり、また温泉もあり、そして適当な都会で、本当に住みよさそうな所だ。

二泊もゆつくりさせてもらい、本当にありがたい、これから後半、頑張りたい、脚しよう。

今思えば……松山市内を一日中托鉢

をしたら、小銭が重くなったので、ちょうど前を通った伊予銀行に入って両替をお願いしました。すると、受付の女性行員が四階にどうぞと案内するではありませんか。やはり四国だけあって、地方銀行の本店でもお遍路さんを大事にするんだと感心しました。四階に行つて両替を頼むと、怪訝な顔をされてしまいました。どうやら、托鉢したお金を寄付すると勘違いしたようでした。

こっちは日々の生活が懸かっている托鉢です。でも、もうそんな乞食僧はいないんだろな。

32日目

4月7日(日) 雨

- 5時15分 開静(起床)
- 5時30分 朝課(朝の勤行)
- 6時 粥座(朝食)
- 7時 大寶寺出発
- 9時15分 三坂峠下の休憩所で小休止  
ここは、まだ桜が咲いていない。
- 10時30分 四十六番浄瑠璃寺参拝
- 10時50分 四十七番八坂寺参拝
- 11時50分 重信川の久米大橋で小休止  
合羽の内側の濡れがひどく、寒い。大寶寺から浄瑠璃寺までは予想外に早く着いた。
- 12時15分 四十八番西林寺参拝
- 13時30分 四十九番浄土寺参拝
- 14時 五十番繁多寺参拝
- 14時15分 齋座(昼食)
- 15時 立出
- 15時30分 五十一番石手寺参拝
- 16時 松山神泉園コースホテル着
- 18時45分 薬石(夕食)
- 20時 開浴(入浴)
- 21時 解定(就寝)

把住 1,000円、放行 4,650円

一日中の雨で疲れた体をしつかり休ませてもらった。気分爽快だ。明日は、道後温泉と市内をじっくり托鉢しようと思っている。天気が回復することを願っています。

34日目

4月9日(火) 快晴

- 6時30分 開静(起床)
- 7時30分 粥座(朝食)
- 8時 コースホテル出発  
今日は暑い。朝から汗ばむほどだ。
- 10時15分 五十二番太山寺参拝
- 11時 五十三番円明寺参拝
- 11時40分 堀江港で小休止  
久しぶりの海は静かだ。瀬戸内に近づいている感じがする。円明寺でお参りの人にお接待していただいたオロナミンCを飲む。缶コーヒーもいただいた。
- 12時10分 立出
- 13時15分 お接待の齋座をいただく
- 14時10分 旅館着、北条市内托鉢
- 16時 旅館着、宿泊  
北条市は予想外に小さな町だった。松山の隣のためか、商店街も活気がない。托鉢の反応も芳しくない。  
旅館も数がなく、町の中ではここぐらいしかなく、仕方ないが大枚をはたかなければならない。托鉢をして、こんな立派な所に泊まっては申し訳ない気がする。
- 18時 開浴(入浴)
- 18時30分 薬石(夕食)
- 20時30分 解定(就寝)

把住 4,215円、放行 5,400円

今はいっている草鞋は踵が抜けてきているが、随分長持ちしている。竜串の藤井寺ユースから履いているから、明日で十日目だ。

明日は頑張つて歩いて、伊予桜井の法華寺ユースホテルまで足を延ばしたい。今治の町を托鉢したかったが、横峰寺が控えているので、明日、横峰寺に近いところまで行きたい。

24km

八ヶ所

土砂降りの中を、難所横峰寺へ

4月11日(木) 強雨

36日目

34km

6時 開静  
 6時15分 粥座(朝食)  
 7時 法華寺ユースホステル出立  
 9時30分 壬生川跨線橋下にて小休止  
 11時 小松町の農家の納屋で小休止  
 先ほど道端でいちごを2バックもお接待していただき、歩きながら食べさせてもらった。満腹だ。そして、ベッドまである農家の納屋で休憩。最高だ。雨は次第に強くなってきた。

11時30分 小松町大頭で斎座  
 12時 出立  
 13時45分 六十番横峰寺参拝  
 14時20分 横峰寺出立  
 16時40分 六十一番香園寺参拝、投宿  
 大頭から湯浪まで、車のお接待をいただいた。雨に濡れているところを乗せていただき、本当に助かった。おかげで香園寺まで来れた。香園寺はビルだ。都会でもこれほどのお寺は見られないだろう。  
 なお、横峰寺から香園寺までは遍路道があった。雨と霧で、幻想の世界を歩いているかのようだった。沢がながへんろ道で手をあげていた。

17時20分 開浴(入浴)  
 18時 薬石(夕食)  
 20時30分 解定(就寝)

把住 0円、放行 870円

これで無事、横峰寺も打ち終えることができた。宿泊代をお接待していただく。雨の日も雨の飛成に、有難いことも多いものだ。

4月10日(水) 晴のち曇

35日目

45km

6時30分 開静(起床)  
 7時 粥座(朝食)  
 7時10分 旅館出立  
 9時 菊間町で小休止  
 9時15分 出立  
 12時15分 五十四番延命寺参拝  
 13時05分 斎座(昼食)  
 13時50分 出立  
 14時 五十五番南光坊参拝  
 14時50分 五十六番泰山寺参拝  
 15時40分 五十七番栄福寺参拝  
 16時20分 五十八番仙遊寺参拝  
 18時 五十九番国分寺参拝  
 18時15分 伊予法華寺ユースホステル着  
 18時30分 近くの食堂で薬石、粥座の買い物  
 19時40分 開浴(入浴)  
 20時30分 解定(就寝)

把住 0円、放行 4,645円

今日はなぜか一日中あせって歩いてきた日だった。そんな必要は少しもないのだけれど、途中で、今治を托鉢しようかとも思ったが、急いでいるうちにそんな気持ちも消えてしまった。  
 仙遊寺からはへんろ道を国分寺に向かっ、直接下りることができ、助かった。

37日目

4月12日(金) 雨

6時 開静  
 6時30分 粥座(朝食)  
 昨夜、濡れた合羽を外に干しておいたら、風で落ちてしまった。あいにく一晩中の雨で、まだ濡れてしまった。部屋にストーブがあったので、今、乾かしている。  
 団体さんの余りの弁当をお接待していただく。  
 12時45分 団体さんの余った弁当で斎座  
 14時 旅館着、わらじ作り  
 今日は細かい雨が絶え間なく降り、風があり、寒い。気持ちがめげてしまい、早くも旅館に入ってしまった。雨が上があれば托鉢に行くつもりだが、とてもやみそうにない。草鞋でも編むことにする。  
 斎座を食べた食堂で旅館を紹介してもらい、お客さんがタクシーで旅館まで送ってくれた。

17時15分 開浴(入浴)  
 18時 薬石(夕食)  
 20時 解定(就寝)

把住 0円、放行 4,600円

今思えば……三十年前の記録を起しているのですが、泊まった宿や昼飯を食べた食堂の名前は書いてないし、右の四月十二日なんかはお参りした札所の記録もなく、どこをどう歩いたのか皆目わかりません。まさか、三十年後にこんな形にされるとも思わずに書いたのだから仕方ない、と三十年後の自分が自己弁護。



38日目

4月13日(土) 曇

- 6時30分 開静
- 7時30分 粥座(朝食)
- 8時30分 旅館出立
- 13時 伊予寒川駅前で斎座  
時折、霧雨が降るが、雨が降らないのはやはり助かる。旧道がずっとあり、車にあおられずに歩け、すいぶん楽だ。
- 13時30分 出立
- 16時 六十五番三角寺着、投宿
- 16時30分 開浴(入浴)
- 17時40分 薬石(夕食)
- 18時45分 晩課(午後の勤行)
- 20時 解定(就寝)

把住 1,000円、放行 4,000円

雨が降ったりで予定通りに行かず、天気予報など気にしているが、昔は天気予報などなく、明日のことは明日任せ、また宿も行き当たりばったりで決めていただろう。今は道もよくなり、トンネルなどで距離もずいぶん短縮されているに違いない。やはり今の方がどんなにか恵まれている。せめて、へんろ道の残っているところは、そこを歩きたいものだ。

はじめて道に迷う。

39日目

4月14日(日) 曇

- 5時30分 開静
- 6時 粥座(朝食)
- 6時30分 三角寺出立
- 8時 椿堂(常福寺)参拝
- 8時30分 小休止  
新緑が目につくようになってきた。
- 9時50分 愛媛・徳島県境
- 11時 道に迷い、香川県側を下りてしまう  
道を探ねた家で斎座のお接待
- 11時30分 出立。途中、車のお接待
- 12時20分 六十六番雲辺寺参拝  
雲辺寺から大興寺までは遍路ころがしと言われる所らしい。ころがるにまかせ、山を下りることにする。しかし、まだ草も茂っていないので助かる。ここは、桜も新緑もまだだ。  
雲辺寺に参拝したころから、久しぶりの青空が顔をのそかせてくれた。陽射しもきつい。

39km

- 15時 六十七番大興寺参拝
- 16時50分 六十八番神恵院、六十九番観音寺参拝
- 17時40分 旅館着  
今日は捨てる神と拾う神に逢った。愛媛・徳島の県境までは道標もありよかったが、徳島側は全く手入れしてなく、完全に迷った。藪の中を抜けて、きれいな茶畑に出た。そこから反対側に見えたのが雲辺寺への道だったが、見事に反対側に下りた。ここまでは、捨てられた。  
とどろり下りたところの民家で道を聞いたところ、茶畑で間違えたとのことだった。ちょうど昼近くだったので、味付けご飯をお接待していただき、再び歩き始めた。  
大きな道をまんだトンネル目指して歩いていたら、フェアレディZの岡山の人に拾われ、雲辺寺まで連れて行ってもらった。車ですいぶんあったので、大助かりだった。ありがとうございました。  
雲辺寺からの下りは、結構長かった。下りて汗をかいたのは、おそらく初めてだろう。それでも上りがなかった分、すいぶん楽だったと思う。おかげで69番までお参りでき、出来すぎの1日だった。

- 18時 開浴(入浴)
- 18時30分 薬石(夕食)
- 20時 解定(就寝)

把住 2,000円、放行 5,460円

お接待を断れずに、一気に。

40日目

4月15日(月) 雨

- 6時 開静(起床)
- 7時 粥座(朝食)
- 7時30分 旅館出立
- 8時30分 七十番本山寺参拝
- 11時 七十一番弥谷寺参拝
- 11時30分 弥谷寺出立
- 12時10分 七十二番曼荼羅寺参拝
- 12時30分 七十三番出釈迦寺参拝  
出釈迦寺を出たところで、大阪からのお遍路さんの車に乗せていただく。前にも乗せてあげて、88番まで連れて行ったとのこと。私もお言葉に甘えてお接待していただき、今晚は高松のホワイトホテルに泊まっている。つまり、74番甲山寺から83番一宮寺まで、一気に回らせていただいた。あっけにとられたというか、何がなんだかわからないが、なるに任せている。  
明日は88番まで行き、そこで分かれて、10番から1番までお礼参りをしたい。車のお接待をいただき、七十四番から八十三番一宮寺まで参拝
- 21時 解定(就寝)

87km

把住 4,220円、放行 2,800円

お礼参り

4月17日(水) 晴

42日目

27km

6時 開静(起床)  
 6時15分 粥座(朝食)  
 6時50分 旅館出立  
 7時20分 九番法輪寺参拝  
 8時 八番熊谷寺参拝  
 9時 七番十楽寺参拝  
 9時20分 七番安楽寺参拝  
 9時40分 松尾神社で小休止  
 10時35分 五番地藏寺参拝  
 10時45分 五番羅漢参拝、小休止  
 11時05分 出立  
 11時20分 四番大日寺参拝  
 12時30分 斎座(昼食)  
 12時50分 出立  
 13時 三番金泉寺参拝  
 13時50分 二番極楽寺参拝  
 14時15分 一番霊山寺参拝  
 15時 霊山寺門前バス停から徳島へ  
 これでお礼参りも無事終わり、四国行脚の日程は全部円成した。あとは高野山にお参りする。  
 10番から1番まで歩いたが、思えばすいぶん楽なコースだったのだ。やはり慣れというものは大したものだ。歩き始めの時は雨も降っていたが、横峰寺の雨の方がずっと大変だった。  
 今日40日の行脚で、初めて接待講の人と会った。ヤクルトをいただいた。うまい。

15時40分 徳島駅着  
 16時30分 徳島駅前発バス乗車  
 17時 徳島コースホステル着、宿泊  
 17時30分 開浴(入浴)  
 18時30分 薬石(夕食)  
 21時 解定(就寝)

把住 5,756円、放行 5,660円

あっけない結願。

4月16日(火) 曇時々晴

41日目

6時 開静(起床)  
 7時 ホテル出立  
 10時 八十八番大窪寺参拝  
 粥座兼斎座のお接待  
 10時45分 大窪寺出立  
 15時 十番切幡寺参拝  
 15時20分 旅館着、洗濯  
 安楽寺まで足を延ばそうと思ったが、安楽寺も、そして十楽寺も宿泊を断られたので、切幡寺門前の旅館に泊まることにした。洗濯して、身を清めてお礼参りをしろということだろう。  
 昨日、車のお接待をしてくれた人に、今日は大窪寺まで連れてきていただき、そこで粥座兼斎座をご馳走していただきお別れした。なんとお礼を言ったらいいかわからないほどだ。また、わらじ代として一万円いただいた。運転手さんにも、千円とたばこをいただいた。

18時 開浴(入浴)  
 18時45分 薬石(夕食)  
 20時30分 解定(就寝)

把住 11,000円、放行 5,200円

七十四番から八十八番まで、お接待でまわらせてもらったが、歩いて回るのと比べてどうだったのだろう。このことは、何も考えること以前の問題だと思っ。この行脚を通して思ったことだが、その時その時が最良の方法であったり、手段であったりするので、歩いた方がよかったとか、道が違っているんじゃないかなどと考えるのはよくない。とにかく、無事まわらせてもらってよかった。

**今思えば・・・**約三十年前の四国遍路の記録を整理いたしました。最後は車のお接待をいただいた、あっけなく結願した感じで拍子抜けだったでしょうか。あの車のお接待をしてくださったご夫婦は、大阪のとある大企業の社長ご夫妻でした。車の中で、私の身の上を根掘り葉掘り聞かれ、お母さんが心配しているから、結願したらすぐに岩手に帰りなさい、飛行機代は出してあげるから、とまで言うてくださいました。その母も、すでにこの世にいません。

今年、平成二十八年はうるう年で、四国遍路は逆打ちをするご利益が四倍になる年だそう。逆打ちというのは、何回巡打ちをしてもお大師さんにお会いできなかったお遍路さんが、逆回りをしてお大師さんにお会いできたという故事から始まったと言われています。その逆打ちの年に、若いころ歩いた四国遍路をまとめたことで、その時お世話になった方々に再び出会えて、改めて感謝の気持ちを持つことができたような気がします。

最後にお金の話はふさわしくありませんが、すべての把住(収入)と放行(支出)を合計すると、ほとんど同額になることに驚かされました。ということは、苦しくつらかったり、すがすがしい気持ちになったりするのも自分のことと思っていました。実は四国の人々が私を歩かせてくれたのだと気づかされたのでした。

臨濟宗の行

◎作務・掃除

◎坐禅

◎托鉢

参加者募集  
約20名

行脚・へんろ

3巡目

# 四国あるき遍路の旅

今から1200年昔、真言宗の開祖弘法大師が42歳のときに人々に災難を除くために開いた八十八の霊場。その霊場を辿るのが、四国遍路や巡礼と言われています。今も訪れる人は多いものの、バスやタクシーに乗り、宿坊・へんろ宿は敬遠され、物見遊山のご朱印集めの旅行に姿を変えつつあります。

圓福寺の遍路は、上の図のように、臨濟宗の行の中の「歩くこと」に主眼を置いたもので、「あるき遍路」と銘打っています。そして、何回も歩いている住職が先達として、雲水姿で一緒ですので、安心して参加できます。日数も、土日を使った三日間の旅程にして、参加しやすくしております。

様々な願いとともに心の修行を重ねる三日間の歩き旅は、きっとなにかの変化をもたらしてくれます。それを功德というのかもしれませんが。

## ■三巡目第一回の予定

【日程】

平成二十八年十一月十八日(金) ~ 二十日(日)

【旅程】

一番札所から十番までは十一番まで巡拝。宿泊は、一泊は宿坊を予定。三日間で約三十八kmを歩く予定。

【参加費】約五〜六万円を予定

## 3巡目を始める時期

平成28年11月から、3巡目をスタートいたします。その後、毎年2月と11月に歩きます。この時期は、草が生い茂ることもなく、虫や蚊もおらず、殺生をせずに歩くことができますので、遍路の適期と言えます。14〜15回で八十八ヶ所を結願予定で、7〜8年を要する計算になります。

## 歩き遍路の費用

毎回5万円前後の参加費を予定しております。納経料と飲み物など以外はすべて含んでおります。

## 歩き遍路を始める前に

一日に15〜25kmぐらい、三日間では40〜60kmぐらい歩きますので、あるき遍路前には多少歩くトレーニングをしてください。慣れるまでには、足に水ぶくれやマメができることがありますので、靴は履きなれたものに限りませす。

## 歩き遍路の持ち物

荷物は、リュックで背負ってください。荷物の重量は、5〜8kgに納めるのが望ましいです。とはいえ、重くても自己責任ですから自由ですが・・・。

具体的な持ち物は、保険証、常備薬、着替え、洗面用具、汗拭きタオル、雨具などです。服装は、歩き重視ですから、特にお遍路さんの装束でなくて構いません。巡拝用品は札所で揃えられますので、四国に行ってからでも間に合います。

## ■「四国あるき遍路の旅」説明会のご案内

ご興味のある方、参加をお考えの方、すでに参加している方、もう結願された方が集まっての懇親会を開催いたします。たくさんのお話が聞けるチャンスです。

平成二十八年九月十日(土)午後六時〜 穴川駅前「亀八」にて  
会費 二千元 申込みはお寺までご連絡ください。

# 2巡目のあしあと

曜日	コ	ー	ス	予	定		
金	6:30	羽田空港集合	7:20発	JAL1431	8:35着	9:00発	
		羽田空港				徳島空港	
		空港リムジンバス	9:24着	9:35発	《徳島バス》	10:01着	10:30発
		徳島駅				13番大日寺	
		一徒歩—	11:00着	11:30発	一徒歩—	11:45着	12:45発
		約2.3km	14番常楽寺		約0.9km	15番国分寺	
土	7:30発	一徒歩—	7:45着	8:00発	一徒歩—	16:00着	
	へんろ宿	約0.8km	11番藤井寺		約12.9km	12番焼山寺	
	8:30発	一徒歩—	13:00着	かな?		15:00着	
	12番焼山寺	約13.2km	広野		約7.6km	13番大日寺	
	3日目に13番まで歩いて、今回の道は先歩です。大日寺からはバスで徳島駅に行きます。大日寺までたどり着けなくても、「広野」まで来れば、後は路線バスで徳島駅まで行くことができます。時間と体力を見ながら判断したいと思います。						
	17:20発	【空港リムジン】	17:44着	18:40発	JAL1442便	19:55着	
徳島駅		徳島空港			羽田空港		

ご参考までに、二巡目の旅程表を抜粋いたしました。時には温泉宿があったり、ビジネスホテルに泊まったりもします。また、旅程の都合でフリータイムができて、観光できた時もありました。

へんろ初の難所「焼山寺」に行った時の旅程。丸一日かけて、二山超えた先の「焼山寺」にたどり着きます。

移動には、公共交通機関を使うこともあります。遍路道の基本は、現存する一番古い遍路道を、と考えています。

曜日	コ	ー	ス	予	定		
金	7:30	羽田空港集合	8:35発	ANA561	10:10着	10:25発	
		羽田空港			高知龍馬空港		
		空港リムジンバス	10:30着	一徒歩—	11:00着	11:37着	《くろしお鉄道》
		後免町通りバス	12:40着	12:50発	約1.6km	後免駅	車中風呂
土	12:40着	安田駅	17:26発	《くろしお鉄道》	17:38着	17:45着	
		唐の浜駅			安芸駅	約3分	「山登屋旅館」
	18:30	夕食					
	8:00発	一徒歩—	12:30	道の駅「夜須」	風呂「レストランテ カシ」	一徒歩—	約8.6km
日	15:45着	28番大日寺	16:30発	一送迎バス—	16:45着	18:00	
					「龍河温泉」	夕食	
	7:55発	一送迎バス—	8:05発	28番大日寺	一徒歩—	10:20着	10:50発
		宿			約9.0km	29番国分寺	
日	一徒歩—	12:40着	13:00発	一徒歩—	13:55着		
	約7.5km	30番常楽寺		約0.5km	風呂「スーパーマルカ」	内に	
	一徒歩—	15:40着	16:10発	《タクシー》	17:00着	18:40着	
	約5.9km	31番竹林寺		約3.0km	高知龍馬空港		
	JAL1490	20:10着			羽田空港		

この回のように、何ヶ所も札所をお参りすることができることもありますが、三日間で2ヶ所しかお参りできないときもありました。この回の「横峰寺」も難所の一つでしたが、積雪がありました。車道はアイスバーンになっていて、細心の注意を払って歩きました。難所越えをして帰路につく日程でしたが、大きな達成感をおみやげにすることができた回でした。

曜日	コ	ー	ス	予	定		
金	各自	羽田空港到着、チェックイン	8:00発	JAL1461	9:40着	9:55発	
		松山空港					
		空港連絡バス	10:23着	10:30発	伊予鉄高浜線	10:51着	11:00発
		松山市駅				高浜駅	
		一徒歩—	11:30着	12:00発	一徒歩—	12:45着	13:05発
		約2.0km	52番太山寺		約2.7km	53番円明寺	
土		一徒歩—	13:15着	13:15発	JR予讃線	14:12着	14:15発
		約0.4km	伊予和氣駅			大西駅	
		一徒歩—	15:10着	15:40発	一徒歩—	16:30着	17:00発
		約3.9km	54番延命寺		約3.4km	55番南光坊	
		一徒歩—	17:15着				
		約0.7km	ホテル福亭				
日		8:00発	一徒歩—	8:30着	9:00発	一徒歩—	
		ホテルにて朝食	ホテル福亭	約2.8km	56番泰山寺	約3.1km	
		9:45着	10:15発	一徒歩—	10:50着	11:20発	一徒歩—
		57番栄福寺		約2.4km	58番仙遊寺	約6.1km	
		13:00着	13:45発	一徒歩—	14:15着	14:39発	JR予讃線
		59番国分寺		約2.0km	伊予桜井駅		
日		14:55着	15:00発	一徒歩—	16:30着		
		玉之江駅		約6.0km	「しこくや」		
		7:30発	一徒歩—	11:00着	12:00発	一徒歩—	
		宿にて朝食	宿	約9.2km	60番横峰寺	約9.6km	
		14:30着	15:00発	一徒歩—	15:30着	16:00発	一徒歩—
		61番香園寺		約1.3km	62番宝寿寺	約0.1km	
日		16:15着	17:20発	JR予讃線	17:26着	17:31発	
		伊予小松駅			壬生川駅	JR予讃線	
		18:25着	18:40発	一空港リムジン—	18:55着	19:45発	しおかぜ17号
		21:10着	松山駅		松山空港	JAL1476	
	羽田空港		羽田到着後流れ解散				

非公開の京の禪寺を巡る

# 京で禪に触れる旅

5月12日(木)～14日(土)の2泊3日。

- ☆ 京都国立博物館特別展「禅一心をかたちに一」をじっくり見学
- ☆ 京都の花街で一番古い「上七軒」を散策
- ☆ 大徳寺の聚光院や黄梅院などの非公開寺院の特別拝観
- ☆ 一休さんゆかりの「大徳寺一久」で精進料理の夕食
- ☆ 黄檗宗の精進料理「普茶料理」も堪能

宗祖臨済禪師千五百年、白隠禪師二百五十年遠忌記念

「京で禪に触れる旅」

に参加して

——新たな発見に感激

西小中台 矢野 弘明さん

■京都国立博物館

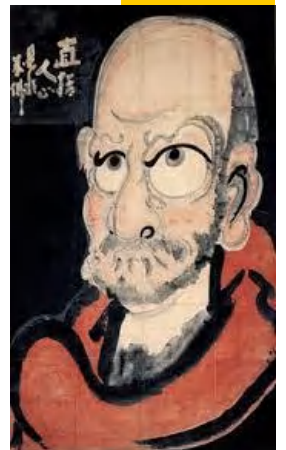
六十五年前の中学の修学旅行が最初で、今まで半世紀の間に十回以上訪れた古都であったが、ほとんどが観光で、もの珍しさに寺社仏閣を巡るだけで、深く考えた事はなかった。

このたびは、宗祖臨済禪師千五百年、白隠禪師百五十年遠忌記念で「春の京都禪寺一斉拝観」に誘われて住職の後について歩く事になった。

初日、新幹線で一時前に京都に着、すぐに京都国立博物館に。全館が禅一色、中国時代の禅の展示物に始まって昭和まで、実

に三百点以上の国宝、重要文化財がぎっしりと館内を埋め尽くされた。その品々は臨済宗の各寺から出品されたもので、これだけの品物を集め展示するのは大変な事であったと思われる。

私事ですが目が回る思いと、館内を見て歩くのに、足腰がふらふら。せっかく来たからにはと欲の権化となつて観て回りました。感想、眼が点になり数の多さに圧倒され、最初に観た展示物が二、三室先の展示室に行くと思ひ出せず、又そのコーナーに戻つて観たりして、ポケが来たかと心配が頭をよぎる。展示館の横で臨済宗にまつわるビデオを見ながら足をやすめる。現在放映されているNHK





の大河ドラマ、真田丸の中で秀吉の子供「すて丸」の小さい可愛い鎧と守り刀が妙心寺からの提供で展示されている。四時半に庭の集合地点に。ゆったりした約三時間の拝観で、展示物から刺激を受けた心地よさと、足腰の弱さが相乗され、大変貴重な経験を初日からうける。身体が三日間もつかない？

地下鉄を乗り継いで二条城のお堀を眺めながら駅の近くの新しいホテルへ、一休みして住職に予約して頂いた近くの店に、第一日の感想など語りながらほどほどに飲食酒。明日への思いを膨らませながらベットに潜りこむ。

■真如寺

初夏の朝、快晴の中を路線バスで立命館大学前下車。学生に混じってまずは真如寺へ。拝観時間が十時、少し早すぎたが、そこは住職が一緒なので先方も大わらわで見学時間を早めてく

子安観音



真如寺の法堂(はつとつ)

れて拝観することが出来た。拝観には案内係りの方が懇切丁寧に説明をしてくださった。

真如寺は三日目に拝観する臨濟宗相国寺を本山とする相国寺派の三つの山外塔頭の一つで、金閣寺、銀閣寺と並び称されている非公開寺院である。真如寺の寺号は中国浙江省の寺から倣い、千二百年代に開かれ今日に及んでいる。建物は質素な佇まいで、華美なところは何処にもなく、京都では珍しいくらい落ち着いた感じのある建物庭園を拝観することができた。あまりの質素さに観光の収入もなく檀家も無く良くぞ維持しているものだと感心するやら心配するやら・・・法堂内部は中二階になっており無学祖元坐

像が置かれていた。

室町幕府や天皇家との縁も深く今日におよんでいる。方丈の襖絵を見学し、茶室へ招かれ、特製和菓子と抹茶で静かな時を過ごす。至福の間。



一休みして北野天満宮に参拝、修学旅行生にまじって社殿で祈願。孫の合格祈願ももちろん要なく、「無事千葉へ帰れますように、美味しい酒が飲めますように」。少し時間があり、千本釈迦堂ともいわれる大報恩寺に足を向ける。約八百年前に開創され京都最古の建造物で国宝に指定されている。宝物殿の仏像も見ごたえがあった。おかげ塚としても有名で災難消除、招福祈願に参拝者が訪れる。寺を後に、上七軒の花街を散策し、昼食は「芳月」京都風お寿司に舌鼓。

### ■大徳寺「黄梅院」

大徳寺山門を横目に、特別拝観の黄梅院を見学。案内係りの流暢な声を聴きながら、庭や襖絵など寺社の謂れなど懇切な説明を聞く。寺名は中国に由来し織田信長の父の追善菩提の為建立。秀吉によって本堂唐門が改築、小早川によって鐘楼、客殿、庫裡など改築現在に至っている。静かな邸内をゆっくりと見学。清正伝承の朝鮮灯籠と池泉式山水庭園を廊下に座って目と身体をしぼし寛ぐ。實はくたびれたのもあり・・・笑。

### ■大徳寺「聚光院」

ここは千の利休が菩提所とし、茶道三千家歴代の墓所となっている。本堂には狩野永徳、松栄作の国宝の障壁画が納められ、庭園は利休の作庭と謂れあり。又、寺内には三畳の利休好み茶室があり重要文化財に指定されている。一転して、書院には現代画家の障壁画の滝が

部屋一杯書かれていたが、寺にふさわしいかどうか、私は違和感を覚えた。

### ■あぶり餅とお茶

そろそろ小腹が

空いてきた。住職が気を効かせてすぐ裏にある今宮神社門前の茶店「かざりや」に赴く。名物の「あぶり餅」を戴く。味噌だれがミソで小腹には何ともいえないぬうま味であった。元気が出たところでもう一軒、梯子酒でなく梯子寺、笑。



あぶり餅

### ■大徳寺「興臨院」

設立は千五百年代に能登の畠山に依って建立。その後前田家の菩提寺に。建築様式檜皮葺の屋根で珍しいとされている。内部も簡素、寺院の建物らしく無いのが特徴のようである。茶室、庭園も落ち着いた風情で親しみやすさを感じる。勿論ガイ

ドの方の手振り顔ぶり弁士ぶり、微に細に話を聞かせてくれる。歳のせいかわ頭の右から左へと抜けてゆく。ボケか？  
初夏の日差しも西に傾き、今度は大腹と咽がまだかまだかと騒ぎ出す。

### ■「大徳寺一久」に大満足

足の疲れをだましましたまし、今晚のお目当て、精進料理の老舗「大徳寺一久」に足をむける。少し時間が早かったけど、そこは住職の顔で、素晴らしい庭つきの座敷に案内される。由緒ある店らしく時代を感じさせる。大徳寺との縁も深いようである。やはり古京都都ならでは、こちらが緊張する。しかし、泡が出る飲み物で住職の音頭宜しく咽を潤せば、寺巡りに話しがはずむ。

料理は前菜に始まって、一品ずつ食べ終わる頃合いをみはらかつて、次の料理が運ばれてくる。数が多く何をどう食べたの

京紫野  
精進料理  
志茂王

宋元の昔中国の料理法が彼我の禅僧方に依つて吾が國に將來せられて已に七百年を経過いたしました。其の間日本の方の好むところと融け合ひまして倍々その持ち味を美しくしてまゐつたので御座います。

殊に茶の本山と云れる紫野大徳寺の和尚様方より辛甘鹹酸苦の五味の案排の秘法を授かり名も一休禅師より一久と給りしと言伝へ大徳寺精進料理方として五百有余年を過してまゐりました。

精進とは求法精進の謂れでありまして食は飢を凌ぐ程がよく形枯を療せんが為にと申されて贅沢は許されずしかも一飽能く万劫の飢を消せしむる禅味に通ずるものでなければならぬ魚肉等の濃艶さは無くとも素朴の味の内に百味具足せしめねばならぬと教へられてまゐりました。

這の歴史と伝統を誇る一久が作ります精進料理はたとへそれが野菜根豆腐等の枯淡なるものとは申せ上乗の禅味を含んで捨て難きものである事を自ら信じてをるもので御座います。

大方風雅の諸賢何卒這の大徳寺精進料理に醍醐味を御味ひ下さいませんか其の悦びは寔に野菜根のみでは御座いません（御注文のみ調理致します）

京紫野大徳寺用精進料理方

一久主人謹白

「大徳寺一久」の精進料理のしおり

か、腹は消化してもボケ頭は未消化。何時の間にか三時間ちかくも座って居た事になる。庭から入る涼風がなんとも風雅で、京の味を心身ともに味わいつくす時間であった。

ホテルに戻り興奮した身体をベットに横たえる。爆睡。

■大本山相国寺

三日目も快晴、ゆっくりと朝食をとり、ゆったりした気分です。バス停へ。相国寺は京都御所の北側に位置し、相国寺派の本山である。足利時代に遡り天皇の勅命を足利義光がうけ千三百年後半に完成。後に豊臣や徳川の庇護をうけ金閣寺、銀閣寺をはじめ九十余寺の本山である。

我が国最古の法堂には運慶作の釈迦如来や脇仏、天井には狩野光信の蟠龍図があり、下で手を叩くとその音が堂内に響きわたる。続いて方丈に案内され、襖絵や表、裏庭、枯山水水平庭などが配置されている。本山だけに



相国寺法堂の龍

その構えは壮大を極めている。ボケ頭がまたも刺激を受け、眼耳が活性化されそうだ。そして又も腹の虫が騒ぎだす。

■閑臥庵の普茶料理

住職推薦の普茶料理店に足をむける。「京七の口」の一つ鞍馬入口の近くの閑臥庵にぶらぶらと徒歩で向かう。此の寺は法皇自ら命名された由緒ある境内の一面に料理を出す建物があり、お参りもそこそこに部屋に案内される。昼間なので般若湯は自粛。庭の新緑の中を通った風が部屋の中に流れる。そうこ



黄檗宗の普茶料理(ふちやりょうり)は、一言で言えば中国の精進料理で、江戸時代初期に、明の高僧隠元禪師が福建省から日本に伝えたもの。大皿で供される。

うして、間に静々と料理が出される。何時も昼食はアツとゆう間に終わるのだが、此処は京、まして普茶料理。心して味あう。食すにあたり「五観の偈」の短冊らしきものを見ながら、凡人の私には解釈は無理、頭ぐるぐる、口ばくばく。二時間近くを要し、貴重な昼食をすこす。凄いの一言。

てすぐに心地良い疲れで白河夜船。全員無事に千葉に帰参。良かった。

京都は何回か訪れたが、今回のような住職と坐禅会の皆さんとの旅は始めてであった。臨済宗の各派や博物館、新聞社、テレビ局、協賛協力各社などによって四月十二日から五月二十二日まで「『禅』一心をかたち」特別展が国立博物館で開催され、特別に秘宝などを公開、大変な行事であったのではないかと思われる。

また、住職には企画、印刷物に始まり、新幹線、宿泊先、食事の予約、見学各寺の設定など色々とお手数を戴き感謝に耐えません。又同行して頂いた奥さんや座禅会の方には大変お世話になりました。ボケ始めの私を誘導していただき有難うございます。

京は何時もだと煌びやかな寺

### ■感じた事

社や、詫寂びのある仏閣などを見て回っておりましたが、今回二日目に訪れた真如寺が、親しみやすく、飾らない建物、庭園など拝観し、京都でも此のような観光とはほとんど縁のない所があり、何かほっとしました。

京都は前面が開け、左右後方が山で囲まれ、盆地そのものが天然の要塞地であり、皇室や武家、社寺、地主や商家、町人、農民などがその中で生活をし、時代々々によってさまざまなきがあつた。明治以前は日本の中心地であり、武力政略や陰謀など巷を駆け巡った所である。

徳川時代、政治が京、行政は江戸



真如寺参道

と分かれ、その以前は京やその付近に政治行政が置かれていた。地方から部族が攻め入り、入れ替わり立ち代わり政権が変わり、その都度商人、町人や農民が戦火による建物や住人が被害をうけ、仏法界も大なり小なり影響を受けている。千年にわたる政争がくりひろげられ、世界でも珍しい都市であるようだ。その中に於いて寺院は政治とは一線を引きながら人々の心の安らぎを求め、維持継承に努めてきたようだ。戦火によって焼失した仏閣などを復興し、後世に残した努力は大変な事と思う。外国では政治が変わると文化遺産を破壊してしまう国もある。その点日本人は遺産を後世になく努力は世界一かもしれないと感じる。真如寺の飾らない佇まい、壮麗な各寺などを見学して、つくづく



感じさせられた旅であった。普段では絶対に観られない各寺、庭園、秘仏、襖絵、軸物、古書、古物等々をガイドの説明を聞きながら、ポケかけた頭と、体力の増強「三日間で二万五千歩」に大いに役にたったようである。

読んで頂いた皆様に少しはお裾分けが出来れば幸いです。

三日目、相国寺の後に、京菓子の「俵屋吉富」の京菓子資料館へ。一階ショーウインドウに京の銘菓が並び、二階は展示室になっており、昔ながらの作りかたや、三尺ぐらいの大きさの造花菓子「職人が一か月かけて作成」等展示。又一階奥で抹茶と作り立ての和菓子、めったに無い事なので勿論戴く。優雅な時間にひたり店を後にしたことを書き忘れた。やはりポケが・・・、反省！

■忘れ物

期日	曜日	コース予定							
1	5月12日	木	8:56 東京駅発	こだま641号	12:44 京都駅着	=市バス= 100、206、208系統	13:15 京都国立博物館	=地下鉄東西線=	
			特別展「禅一心をかたちに一」	博物館出発	16:30 京阪七条駅発	三条駅乗換			
			17:02 二条駅着	徒歩	17:10 ホテル着	18:30 「夜咄にのまる」にて夕食			
2	5月13日	金	7:00 朝食	8:30 ホテル出発	8:46発 千本丸太町	=市バス15系統=	9:01着 立命館大学前	徒歩 約15分	
			10:00~11:00 真如寺参拝	徒歩 約10分	11:15~11:45 北野天満宮参拝・上七軒散策	徒歩	12:00 「芳月」にて昼食	12:30発 「芳月」出発	
			12:39発 千本今出川	=市バス206系統=	12:53着 建勲神社前	徒歩 約7分	13:00 大徳寺	19:59発 黄梅院特別参拝	=市バス206系統=
			17:30 聚光院特別参拝	総見院特別参拝	17:30 「大徳寺一久」にて精進料理の夕食	19:59発 大徳寺前			
3	5月14日	土	7:00 朝食	9:15発 ホテル出発	9:27発 千本旧二条	=市バス201系統=	9:44着 同志社前	10:00~11:00 相国寺特別参拝	
			徒歩 約10分	11:30 「閑臥庵」にて普茶料理の昼食	13:00発 閑臥庵	鞍馬口駅	=地下鉄烏丸線=		
			京都駅着	新幹線出発まで自由行動	15:05 京都駅発	のぞみ232号	17:23 東京駅着、解散		

平成二十八年上半期  
お寺と和尚の記録抄

1月	2月	3月	4月
1日 1日 3日	6日 7日 8日 9日 10日	1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日	1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日
新春ご祈禱 修正会 スマートフォンテ、 「写経会」 幼稚園、始業式 スマートフォンテ、 「写経会」 幼稚園、年長組市原たんけん隊 花園会新年会 幼稚園、年少組市原たんけん隊 幼稚園、年中組市原たんけん隊 幼稚園バザー「くすのきまつり」 スマートフォンテ、 「写経会」 幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」 写経会 幼稚園、涅槃会 東京教区第七部内会 於佐倉 伽藍再建設計土さんブレゼンテーション スマートフォンテ、 「写経会」 土曜会「仏教シアター」 幼稚園、会計監査 スマートフォンテ、 「写経会」 伽藍再建打ち合わせ 幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」 写経会 春彼岸法要 幼稚園、卒園式 宗耕禅士、役員壮行会 土曜会「彼岸法話会」古山敬光師 取手長禅寺、春彼岸法要 スマートフォンテ、 「写経会」 冬の寺子屋、於福島 宗耕禅士、八幡圓福寺に 出立 スマートフォンテ、 「写経会」 伽藍基本計画打ち 合わせ 写経会 幼稚園、入園式 京都八幡圓福寺 老大師相見			

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日	1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日	3日 4日 5日 6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日	1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日	1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日	1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日	1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日	1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日
土曜会「歩禅会」安房佐貫・竹岡方面 取手長禅寺、観音まつり 伽藍再建打ち合わせ 幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」 スマートフォンテ、 「写経会」 写経会 スマートフォンテ、 「写経会」 幼稚園、「花まつり」 平林寺放生窟老大師三回忌 土曜会「京で禅に触れる旅」 第四十回花園会ゴルフ大会 スマートフォンテ、 「写経会」 伽藍再建打ち合わせ 土曜会「市原ボランティア」 幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」 幼稚園、年長組市原たんけん隊 幼稚園、年中組市原たんけん隊 スマートフォンテ、 「写経会」 千葉市幼稚園協会 振興大会60周年表 彰 写経会 幼稚園、年少組市原たんけん隊 幼稚園、決算監査 スマートフォンテ、 「写経会」 伽藍再建打ち合わせ スマートフォンテ、 「写経会」 幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」 写経会 伽藍再建打ち合わせ 山門施餓鬼会 於幼稚園二階ホール 七月盆棚経 幼稚園、お泊り保育 圓福寺寺子屋「禅童会」於耕雲寺 伽藍再建打ち合わせ スマートフォンテ、 「写経会」 東京教区第七部内会 於佐倉							

## Q園隊の珍客

(6月の「園だより」から)

5月のQ園隊は、学校の運動会時期と重なり、参加人数が少ないのではないかと心配しましたが、たくさんのお手伝いをいただきありがとうございました。

当日、畑の周りの草刈りをしていたら、草むらに何やら動く動物！春先には野ウサギの子どもと遭遇したので、またウサギかなと思ったら、小さな背中に縦じま模様、ウリ坊だ！思わず草刈り機から飛び降りて捕獲！これは子どもたちに見せてあげたいと思い、急ごしらえの柵の中に入れて、ミニ動物園ができあがりました。

もう3〜4年前、野ウサギの赤ちゃんを連れ帰って、ミルクを飲ませようとしましたがうまく飲んでくれないので獣医さんに連れて行ったことがあります。そこで言



われたのは、野生動物を勝手に捕獲したり、野鳥の卵を勝手に採取してはいけない、まして飼育することなどは、「鳥獣保護管理法」に違反することになるから、自治体に届け出をしないとイケないですよ、と教えてもらいました。

どんな法律なのかと、ヤホーで調べたら、???と私の頭がパンクしそうな活字の多さでした。私なりのかいつまんだ解釈だと、鳥獣は私たち人間を取り巻く自然環境を構成する重要な要素であること、生活環境を保持・改善するうえで欠かせないものだから、勝手に捕るなどということ。自然のままに放っておけ。同時に人間と鳥獣との共存を図って、農林業等を保全するために捕獲したりするのなら、ちゃんと許可をとってからに

しろということのようです。

私が捕獲してしまったウリ坊は、みんなに見られてすっかり疲れ果てたようでした。かわいそうだから山に帰してあげようとしたら、美樹先生の腕の中でおっぱいを探すしぐさをしきりにしていました。まだ、乳離れできていないウリ坊だったようです。

野生動物は、その個体数が増えて生活しにくくなると生息域を広げて、自然界の中でたくましく育っていきます。それに比べて、人間は出生数が減少し、その個体数が減ることで親の手が必要以上にかけられるようになって、指示待ち、マニュアル人間が増殖しているようです。そのうち、「子ども自立促進法」なんていうのができて、自立できない子どもを育てた親には罰則があるなんていう時代が・・・なんていうことは願っていません。



子どもたちのお盆

# 地藏盆のご案内



8月27日(土)

午後5時	供養受付(大師堂にて)
5時半	水子・ペット・人形供養
6時	御霊送り
8時	模擬店閉店・地藏盆終了



お申込下さい。

\*供養料

水子	一霊位	三千元
ペット	一霊	千円
人形	一体	千円

\*供養料は当日の受け付けです。

## ご供養のご案内

地藏盆では、水子供養とペットの供養、人形の供養とお焚き上げをしております。供養をなさりたい方は、添付の申込書を送って下さるか、お電話にてお申込下さい。

山岡鉄舟母堂のお地藏さんにちなんで毎年開催されている「地藏盆」も今年で第二十二回。  
参道の両側に「禅重会」に参加した子どもたちが作った灯籠が飾られ境内のわらべ地藏たちにお灯明があげて、本堂では、水子供養・ペット・人形の供養。そのお灯明を頂いての「みたま送り」、幼稚園児の盆踊りとなります。

織 暑 御 恩 舞

お品書き

手作り焼きそば、  
 炭火やきとり、山  
 形産玉こんにゃ  
 ク、昔なつかしの  
 駄菓子 かき氷 冷  
 たいまビール、  
 ジュース、こころ  
 じずかに野点の一  
 服、その他